「佐渡島の金山」保存活用推進ネットワーク 設立趣意書

＜これまでの経緯＞

これまで、「佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議」会員をはじめとした企業、団体等の御理解・御協力をいただきながら、世界遺産登録に向けた署名や情報発信、保全活動などに長年取り組んできた。

その結果、令和6（2024）年7月27日に、インドのニューデリーで開催された国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の第46回世界遺産委員会において、「佐渡島の金山」の世界遺産一覧表記載が決議された。

＜「佐渡島の金山」の世界遺産としての価値＞

「佐渡島の金山」は、世界の他の地域において採鉱等の機械化が進んだ時代に、高度な手工業による採鉱と製錬技術を継続したアジアにおける他に類を見ない事例として、その顕著な普遍的価値が認められた。

＜今後の取組の方向性＞

世界遺産「佐渡島の金山」を世界の人々と共有し、資産の価値を未来に継承することは、私たちに課せられた責務であり、引き続き、企業や団体、行政だけでなく、個人の力も合わせた地域社会総がかりでの保存活用の取組が不可欠であると考えている。

加えて、世界遺産を核に佐渡をはじめとする本県の魅力を広く周知し、官民一体となって交流の拡大を図ることで、地域の持続的発展を実現することも、未来への継承のために重要であると考えている。

このため、「佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議」を発展的に解散し、世界遺産登録後の資産の保存及び活用を一層推進する新たな組織として、ここに、「『佐渡島の金山』保存活用推進ネットワーク」を立ち上げることとする。

令和7年5月22日